

6年生の歴史の授業を見せていただいた。鎌倉時代「元寇」から鎌倉時代がなぜ滅びることになったのかを考える学習▼昭和、平成に子ども時代を過ごした人の中には、「社会で習った」「社会で覚えた」というフレーズを使う。令和の子どもには、「社会で考えた」というフレーズが使えるような授業展開を求めている▼「習った」「覚えた」ことを否定しているわけではない、「習った」「覚えた」ことを使って、「考える」のだ。そして、考えを出し合い、深め合いながら、最善解を導き出す▼6年生はどちらかと言えば、大人しい。授業中は控えめな子もちらほら。当ててもらえなくても何度も何度も手を挙げ続け、自らをアピールし続ける子もいる。多様な子どもたちを担任教師は見事にコントロールしながら授業を組織していく▼話している子も聞いてばかりの子もどの子にとっても居心地のよい教室であった。子どもの笑顔がその証拠。教室で子どもたちがつながっている。担任教師は、その「しかけ」を日々思考錯誤しながら、これまでも、これからも積み上げていく▼実はこの授業は阿下喜小のすべての教員が参観させていただいた。放課後には、授業を振り返り、論議し、明日からの授業にフィードバックさせていくのだ。担任教師は、今日の授業は謙遜して60点だったとつぶやくが、「たのしかった」と笑顔。その笑顔に100点をあげたい。